

小・中学校英語教育における絵本とチャップブックの活用例 —免許法認定講習「英米文学」における講義から—

松井 孝彦* 松井 千代**

*教職実践講座
**愛知淑徳大学

Examples of use of Picture Books and Chapbooks in English Education at Elementary and Junior High Schools - From the Lecture on English and American Literature of the Qualification Seminar under the Education Personnel Certification Act -

Takahiko MATSUI* and Chiyo MATSUI**

* Department of Practitioners in Education, Aichi University of Education, Kariya 448-8542, Japan

** Aichi Shukutoku University, Nagakute 480-1197, Japan

Keywords : 英米文学 絵本 教材活用

2016年12月より、愛知教育大学では文部科学省からの委託事業として小学校英語教科化に向けた専門性向上のための講習を開発、実施している。本稿では、2018年度の講習の一つである「英米文学B」の一部で行った、絵本やチャップブックを小中学校英語教育現場にて教材化するための講義及び演習の内容について報告することを目的とする。

I 事業の趣旨と講習の受講者について

2020年度の新学習指導要領施行により、小学校では中学年で外国語活動が、高学年で外国語の授業がそれぞれ始まる。これは、文部科学省が推進してきたグローバル人材の育成施策の一つであるが、この小学校英語教科化に向けて、文部科学省は2014年における「英語教育の在り方に関する有識者会議」の報告の中で「小学校教員が自信を持って専科指導にあたることが可能となるよう必要な研修を充実すると共に、『免許法認定講習』の開設支援等による中学校英語免許状取得を促進する」¹⁾と述べている。これを受けて、2016年度より始まった事業が「小学校英語教科化に向けた専門性向上のための講習の開発・実施事業」であり、愛知県では本学が事業の委託を受けることとなった。

本事業には二つの趣旨があり、それらは以下のようになっている²⁾。

- ・これまで小学校外国語活動の指導において中心的な役割を果たしてきた教員が教科としての外国語科(英語科)の指導に対応するためのプログラムを開発し、講習を実施する
- ・委託先において、教育職員免許法に規定する免許

法認定講習、免許法認定公開講座又は免許法認定通信教育(以下、「免許法認定講習等」という。)を開発・実施し、現職の小学校教員が中学校教諭免許状(外国語(英語))を取得することで、小学校における外国語教育の専門性の高い指導体制の充実を目指す

この後者の趣旨を受けて、本学では免許法認定講習プログラムを開発し、現職の小学校教員を受講者として、2016年12月には5つの講座を、2017年8月からは16の講習を行ってきた。

II 本稿における講習「英米文学B」について

1 シラバスにおける講習内容と到達目標

2017年における中・高等学校教員養成課程外国語(英語)コアカリキュラム案の「英語科に関する専門的事項」では、これまで通り英語文学は必修となっているが、小学校教員養成課程外国語(英語)コアカリキュラム案の「外国語に関する専門的事項」では、学習項目の中に「児童文学(絵本、子ども向けの歌や詩等)」が位置づけられている³⁾。そこで、2017年8月から開講した英米文学Bでは、児童文学を扱うこととした。

到達目標については、中学校教諭免許状の取得を目的とすることから、中・高等学校教員養成が目標に掲げている「英語表現についての理解」「文学作品で描かれている国・地域の文化についての理解」「代表的な文学についての理解」とした。しかし、小学校教員養成が目標に掲げている「児童文学(絵本、子ども向けの歌や詩等)についての理解」⁴⁾についても本講習で達成できるように考えた。

2 講義・演習内容

2 日間における 16 時間の講習（試験 1 時間含む）は以下のような内容で行われた。

初日：8 時間

- ・児童文学概論及び英文講読（4 時間）
- ・Nursery Rhyme 概論、講読及び教材化（4 時間）

2 日目：8 時間

- ・絵本に関する講義、英文講読及び教材化、試験（8 時間）

児童文学概論に関しては、英語圏の児童文学についてまとめられた書籍⁵⁾ やインターネット上の図書館サイト⁶⁾ 等を通して各時代における代表的な文学について講義した。また、“International Children’s Digital Library”⁷⁾ や“Library of Congress”⁸⁾ 等のインターネット上のサイトに公開されているチャップブックやトイブック、実物の絵本等を通して英文の講読をした。

Nursery Rhyme 概論に関しては、*The Oxford Companion to Children’s Literature*⁹⁾ や Opie らの書籍^{10) 11)} を参考にして、音声的特徴や文化背景について講義し、Singing Games の分類を紹介した後に教材化をする演習を行った。

絵本に関する講義内容について、本稿では次章から詳しく述べることとする。

Ⅲ 絵本に関する講義及び教材としての活用について

絵本とは、「絵と文が同じ比重をもつアートフォーム」であり、「両者の有機的な結合により、単なる絵でも文章でもない別世界が創出される」という特徴もっている¹²⁾。また、製版技術が発展するに伴い、絵や文の比重が変化をしたり、読者対象が乳幼児から成人まで含むようになっていった。

この章では、第一節で authentic な絵本の特徴を踏まえた絵本の活用法及び教材化について報告をする。また、第二節では、初期の絵本の一形態であるチャップブックに注目をし、チャップブックを作成する際に行った講義と本の制作の様子について報告をする。

1 絵本に関する講義と教材化について

(1) authentic な絵本の特徴

児童文学で取り扱われる内容は、時代や場所を越えて読み手を魅了するものが多いが、それを書いた作家や書かれた時代、社会的背景、文学的な伝統や物語のジャンルの影響を受けている。絵本にも同じ特徴が表れており、それらを深く理解していれば、内容の理解や読む楽しみがさらに深まることとなる¹³⁾。

そもそも authentic な絵本は、非英語母語話者が学習のために使用することを前提として書かれた訳ではない。中には、母語話者が段階的に読むことを学ぶために編集された絵本も存在するが、語学学習用のテキ

ストのように文法項目や語彙が統制されることはなく、過去形やいわゆる三単現の s、日常における生活語彙等が、物語の必然性に応じて使用される。

しかし、authentic な絵本は、そのストーリーの面白さが学習に対する動機づけを高めることが期待できたり、内容理解に伴って子どもの創造的思考力や情緒的な発達が期待できたりする格好の教材となり得る。また、子どもは同じ絵本を何度も読み聞きすることに対して飽きることがないため、絵本は子どもに英語特有の韻やリズムを身に付けさせたり、文脈を通して語彙や文法事項を習得させたりすることに役立つ教材ともなり得る¹⁴⁾。

(2) 絵本を教材化するための視点

authentic な絵本の特徴について講義をした後、絵本の教材研究において必要となる 7 つの視点を示した¹⁵⁾。

- ・最終目標の候補、成果等
- ・言語目標
- ・文の機能と構造
- ・語彙
- ・発音
- ・教科横断的学習
- ・文化的情報

実際の講義では、まず Bill Martin & Eric Carle による絵本 *Brown Bear, Brown Bear, What Do You See?* を用い、上記各視点について一点ずつ確認をした。そして、Eve Sutton & Lynley Dodd による *My Cat Likes to Hide in Boxes* を用い、実際に絵本を読み、上記各視点を書き出すという教材研究の演習を行った。この絵本において、上記視点について考えられる主な内容は以下の通りとなる¹⁶⁾。

- ・最終目標の候補、成果等
世界の国々とネコのストーリーを書く
- ・言語目標：スキル
リスニング：韻を踏んだ語の認識を深める
スピーキング：重要語彙を繰り返し言う
リーディング：韻を踏んだ文をマッチングさせる
ライティング：ネコを描写し、絵本を作る
- ・言語目標：文の機能と構造
能力について尋ねる：Can you + 動詞？
位置を説明する：in, out, under, on
ネコを描写する：It is + 色、大きさ等
- ・語彙
国、都市の言い方
動詞、名詞、形容詞（色・大きさ）、前置詞
- ・発音

[a] [eɪ] [i:] [ɪ] [æ] [aɪ]

イントネーションと強勢：“But **MY** cat likes to hide in boxes.”

- ・教科横断的学習
地理、図画工作
学習ストラテジー：比較、分類、予測、関連付け
概念の教科：色、位置、
公民：異文化に対する理解を深め、ステレオタイプを打破する
- ・文化的情報
登場する7カ国の代表的なものの紹介

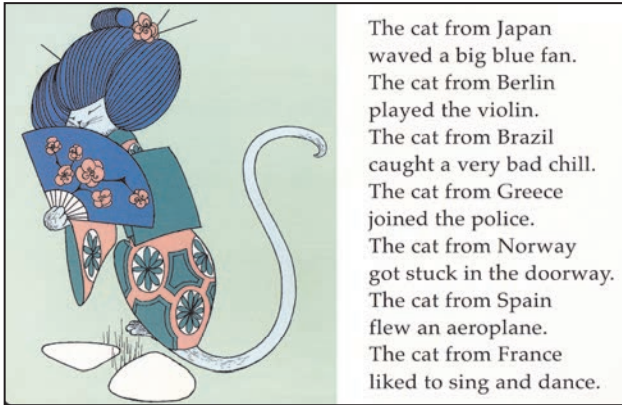


写真1 My Cat Likes to Hide in Boxes の一部

教材研究の演習後、最終目標の候補に挙げられている「世界の国々とネコ」及び言語目標のライティングに挙げられている「ネコを描写し、絵本を作る」に着目し、受講者に「世界の国々のネコを描写し、クラスブックを作成する」ことを目標とした活動を行った。クラスブックとは学級全体で作成する一冊の本のことである。今回は受講生が児童生徒の立場となり、絵本の内容を学習した後、全員でクラスブックを作成するという想定で演習を行った。

(3) クラスブック作成

一人一人にA5サイズ用の紙を1枚配付した。受講生は、用意していた色鉛筆等でネコの絵を描き、そのネコを説明する英文を書いていった。

多くの受講生が、まず文化的情報に着目し、どの国や都市を扱うかを考えていた。そして、韻を踏んだ英文を作ることができるかどうかを考えていた。また、作成をしながら、実際に児童生徒がこの活動に取り組む場合、どの程度の英文を書くことができるかを考えている受講生もいた。そういった受講生は、意図的に容易な英文を用いて作品を完成させていた。

全員が1ページ分作成することができた。そして、受講生46名中38名が韻を踏んだ英文を作成し、さらにその中の9名が、文化的情報も含んだページを作成することができた(写真2、写真左の英文：The Cat from Germany plays the timpani. 写真右側の英文：

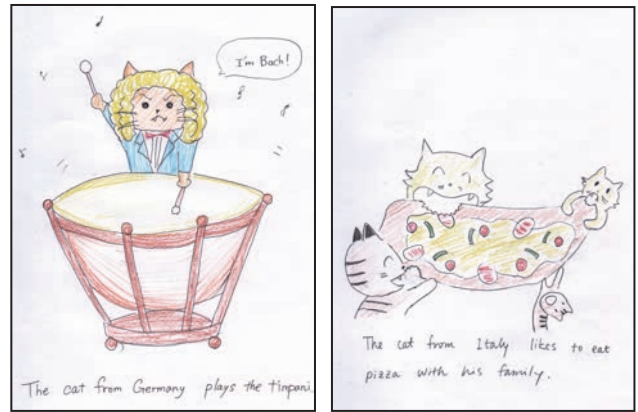


写真2 受講生のクラスブック作品例

The cat from Italy likes to eat pizza with his family.)。

2 チャップブック制作時の講義とその制作について

(1) 物語の構造と教材としての特色づくりの視点

前節で述べた絵本のもつ特徴を活かすことによって、教育効果の高い教材を作成することが可能になる。また、絵本を自作することにより、コアカリキュラムで到達目標として位置づけられている英語表現や文化、児童文学についての理解がより深まることも考えられる。小学校教員として、そして英米文学の講習の受講生として、双方の立場から学びが深まることをねらい、絵本作成の演習を計画した。

作成する絵本については、18世紀から19世紀にかけての絵本の一形態であるチャップブックを作成することとした。チャップブックとは、一枚の紙の表裏に絵と文を書き、折りたたむことによってできる絵本のことを指す。安価に作成が可能であったため、チャップブックが取り扱った題材は口承の唄、昔話、外国の文学の簡約版から創作物まで、幅広いものであった。

今回は、A4用紙を2~3枚折りたたんで作成が可能な8~12ページまでのチャップブックを作成することとした。

内容については創作物とした。講習初日の児童文学概論の中で、児童文学がもつ物語の構造について以下のような講義をしたが、その構造に沿ってチャップブックを作成することとした。

物語の構造¹⁷⁾

- ・Setting: when and where the story takes place
- ・Characters: the people or animals who perform most of the action
- ・Problem(s): the puzzle or issue that the characters must try to solve
- ・Plot: what happens in the story; what the characters do to try to

solve the problem

- Solution of the problem: the ending, or conclusion of the story; how the characters finally solve the problem

また、小中学校で読み物教材として使用する場合、習得をさせたり、慣れ親しませたりしたい文の機能や構造、語彙等についても構想する必要がある。そのため、以下の点についても考慮することとした¹⁸⁾。

- Repeated patterns: 外国語の音声やリズム、繰り返し指導による定着
- Medium dependence: イラスト、写真、視聴覚教材の有効活用。ただし今回は絵とする
- Tense: 現在形、過去形
- Point of view: 誰の視点によって話を進めるか。主人公が視点であれば、三単現のsをある程度避けることも可能

以上の内容を構想用紙（資料1）に記入し、物語を構想することとした。その後、チャップブックを作成し、4~5人のグループ内で読み聞かせを行った。

(3) チャップブック作成

主に物語作成の視点は二つに分かれた。一つは

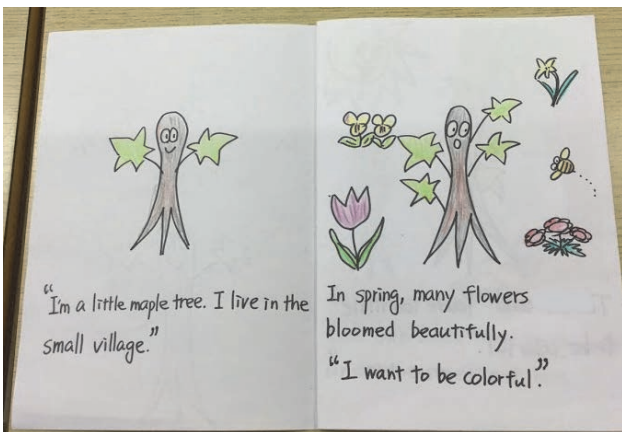


写真3 Story-based の作品例

Story-based（写真3）、もう一つは Repeated Patterns に焦点を置いたもの（写真4、5、6）であった。Story-based の作品には、必ず最後に Solution of the problem のページが用意されていた。また、写真6にあるように、Repeated Patterns の作品にも Solution of the problem ではないが、話のオチが用意されているものが多かった。

(4) 受講生の学び

チャップブック作成後に、4~5人で構成したグループ内で、互いの作品を用いて読み聞かせを行った。チャップブックの作成及びグループでの発表を通して、受講生は様々な学びを得ていた。資料1の「グループ発表を終えて」に書かれた記述から、受講生の学びをまとめていく。

①文学的な視点

事例1 文学的な視点、絵本の特徴を捉えた視点からの記述例

- Plot がしっかりしていると話の繋がりがおもしろくて、もう一度聞きたくなった。
- 物語調にすることで絵本の世界に入り込みやすい。
- ストーリーに道徳的な要素が入ることで温かい雰囲気になることができた。

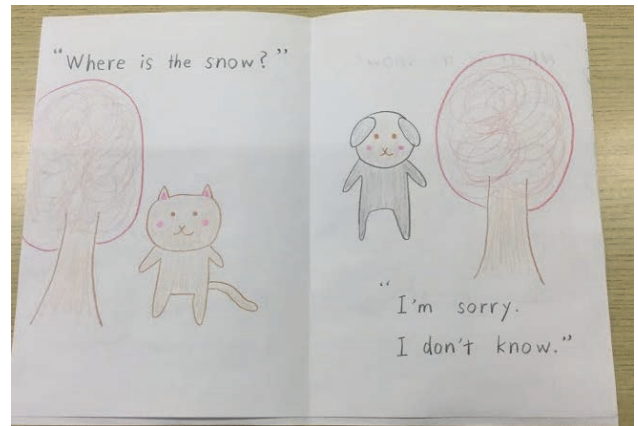


写真4 Repeated Patterns の作品例

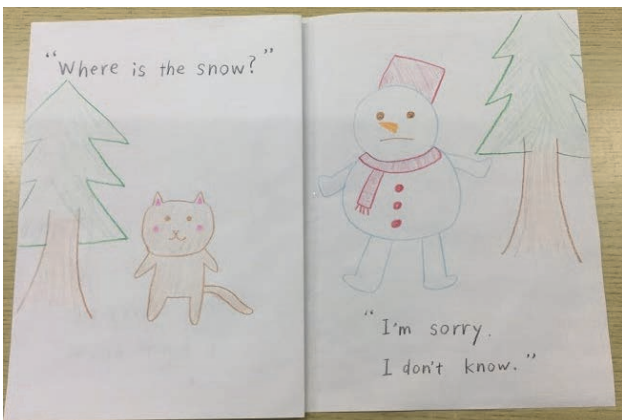


写真5 Repeated Patterns の作品例(写真4の続き)



写真6 Repeated Patterns の作品例(写真5の続き)

- d) 次の展開を期待するページの使い方が参考になった。
- e) ページが進むごとに内容が付け足されていき、最後に一つのもので完成するというアイデアがよかった。
- f) 韻の踏んである文は、とてもリズムがあり、読んでいて気持ちよかった。
- g) 自分はライムが使えなかったもので、いつか使ってみたい

a) から c) までについては、物語の構造について書かれている。Problem – Plot – Solution of the problem の展開例については、一般的な成長物語の展開例やシンデレラ物語の型等を講義の中で解説していた。受講生が作成した Story-based の作品の中には、その成長物語の展開を参考にしたものもあったので、このような学びを得た受講生がいたと考えられる。

d) と e) については、絵本の特徴を捉えた視点からの学びであると思われる。

f) と g) からは、クラスブックを作成した際に学んだ韻の知識を、チャップブック作成でも活用しようとしたことが分かる。Repeated patterns を用いた物語では韻を踏みやすく、その結果このような学びが得られたようであった。

②教材としての視点

事例2 教材としての視点からの記述例

- h) Repeated patterns で言葉や文を繰り返す手法を使うと、子どもたちがその言葉や文を覚えてしまつてよいと思った。何回か繰り返されると子どもたちがそのフレーズを覚えて、自然と発声したくなる。
- i) 繰り返しのセンテンスが柱となること、できればそれがリズムカルで耳に残ることがとても大切でした。
- j) 絵の表情で、語句の意味を想像させることができる。
- k) Repeated patterns では、3 回程繰り返していくと次の展開が予想できて、安心感が生まれる。最後のところでほっこりさせると子どもも落ちつくことが分かった。
- l) シンプルにすることで、教えたいこと、伝えたいこと、言わせたいことが明確になり、子どもたちの心にのこるのだと思いました。

h) から k) については、読み聞かせの体験を通して受講生が得た学びについて書かれている。h) と i) は、子どもに英語の表現を習得させるための工夫についての学びである。j) は、絵が未習の表現の意味を推測する際に助けとなることについての気付きである。

k) については、絵本の持つ情意面への効果に関する記述である。この受講生は、Repeated patterns が、言語習得以外にも子どもの学習にいい影響があること、そして、物語の構造が、子どもを作品世界に引き込むこと以外にも学びに対する安心感を生むことを、それぞれ実感したようである。

l) については、教育目標の焦点化に関わる学びであるとする。Authentic な絵本の中には芸術性が高く絵の情報量が多いものがある。そういった絵本を教材として使用すると、子どもが英語を聞きながらどの絵を見ればよいか分からなくなってしまい、学習効果が想定よりも低くなる可能性がある。実際にシンプルに作成されたチャップブックの読み聞かせを通して、このような学びが得られたのであろう。

③内省的な感想

事例3 内省的な視点からの記述例

- m) 韻にこだわって内容が少しこじつけになった部分もできてしまいました。たくさんの絵本や児童書に触れて、言葉に対する研ぎ澄まされた感性を養いたいと思います。
- n) 絵本の中にある言葉の面白さを媒介にして人と人と繋ぐ素晴らしい教材であることを学びました。

m) の記述からは、受講生が自分自身の英語表現に関する知識と児童文学の理解に対して、将来の課題を見出した様子が想像される。他の受講生からも同様の記述が多く見られたが、どの感想からも、受講生自身の英語力に関する振り返りばかりではなく、作品として世に出ている絵本や児童文学がいかにか練られた上で作られているかを実感している様子が見られた。

n) からも絵本の言葉の緻密さを実感している様子が見られる。しかし、絵本のもつ教材としてのよさには、表現や文化を学ぶばかりではなく、作品世界とそれを読んでいる人同士とを結び付ける力があるということも述べている。素晴らしい作品を読んだり聞いたりした後に、それを共有し合った者同士の間に流れる感覚が、学校教育の中で大切な役割を果たすのではないかということを示唆しているように思われる。

IV まとめ：今後の講習に向けて

2020 年度から新学習指導要領が施行される。また、2019 年 4 月から施行される新しい教員免許法施行規則では、小学校教諭の「教科に関する専門的事項」に外国語が追加されることになっている。この新課程による養成教育を受け、2023 年から教員になる者は外国語の指導法も学んでいることになるが、現在小学校教員免許を持ち小学校で教育活動をしている教員は、外国語が教科化されるに当たり、どのように指

導をすればよいか戸惑いを隠せないでいる。本講習は、そういった「現職の小学校教員が中学校教諭免許状（外国語（英語））を取得することで、小学校における外国語教育の専門性の高い指導体制の充実を目指す」ことを目的として開講された。児童文学の理解に関して、また、英語表現や文化的な背景に関して、講義や演習を通して受講生に学んでもらった。本稿で報告をした内容は受講生の学びの一部であるが、その様子から目的をほぼ達成できていると考える。加えて、受講生は、児童文学、特に絵本の教材化に関する知識も十分に修得できていると考える。

こういった講習の必要性は今後もあると考える。本年度の成果を元に、免許法認定講習としてだけではなく、現職教員の研修としての講習にも対応できる内容かどうかについて、今後検討していきたい。

参考文献

- 1) 文部科学省（2014）「今後の英語教育の改善・充実方策について 報告～グローバル化に対応した英語教育改革の五つの提言～」、
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/102/houkoku/attach/1352464.htm（参照日：2018年11月23日）
- 2) 文部科学省（2016）「小学校英語教科化に向けた専門性向上のための講習の開発・実施事業委託要項」、
http://www.pref.osaka.lg.jp/attach/4475/00248131/01_youkotou_syogakkoueigotokka.pdf
（参照日：2018年11月23日）
- 3) 文部科学省（2017）「資料6-1 外国語（英語）コアカリキュラム案」
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/002/siryu/attach/1388110.htm（参照日：2018年11月23日）
- 4) 前掲3)
- 5) 日本イギリス児童文学会編（2011）『英語圏諸国の児童文学 I 物語ジャンルと歴史』 ミネルヴァ書房
- 6) 国立国会図書館国際子ども図書館（2013）「ヴィクトリア朝の子どもの本」、
<http://www.kodomo.go.jp/ingram/about/index.html>（参照日：2018年11月23日）
- 7) International Children's Digital Library.
<http://en.childrenslibrary.org/>（参照日：2018年11月23日）
- 8) Library of Congress.
<https://www.loc.gov/accessibility/>（参照日：2018年11月23日）
- 9) Carpenter, H. & M. Prichard. (1984) *The Oxford Companion to Children's Literature*. Oxford University Press.
- 10) Opie, I & P. (1955) *The Oxford Nursery Rhyme Book*. Oxford University Press.
- 11) Opie, I & P. (1985) *The Singing Game*. Oxford University Press.
- 12) 桂宥子（2011）「2 絵本 (Picture Books)」、日本イギリス児童文学会編（2011）『英語圏諸国の児童文学 I 物語ジャンルと歴史』 ミネルヴァ書房
- 13) 前掲5)
- 14) エリス, G.・ブルースター, J. (2008) 『先生、英語のお話を聞かせて！ 小学校英語「読み聞かせ」ガイドブック』松香洋子監訳、八田玄二・加藤佳子訳、玉川大学出版部
- 15) 前掲14)
- 16) 前掲14)
- 17) 高橋和子（2017）「小学校英語教材としての物語構造と特色を踏まえた実践を目指して」、第17回小学校英語教育学会兵庫大会口頭発表
- 18) 前掲17)

愛知教育大学「中学校教諭二種免許状（外国語(英語)）取得のための認定講習」

英米文学B #3-4

氏名 _____

絵本づくり構想

① Setting
② Characters
③ Problem(s)
④ Plot: ※少々詳しく。頁割りまで考えてください。
⑤ Solution of the problem:

⑥ Repeated patterns :
⑦ Medium dependence: ※ 今回は簡単な絵となります。
⑧ Tense: ※ 「現在形」「過去形」、「会話中心」「ナレーション中心」 等
⑨ Point of view: ※ 「『わたし』の視点から」「場面によって変更」 等

グループ発表を終えて ～他者の発表を参考に、自身の作品の改善点を書いてください～